

地質調査所野島断層コアと孔内計測のまとめ

A review of observation of fault zone properties and analysis of borehole core samples from fault drilling to the Nojima fault

伊藤 久男[1]

Hisao Ito[1]

[1] 地質調査所

[1] Geological Survey of Japan

地質調査所では1995年兵庫県南部地震の直後に野島断層を貫く坑井を掘削し、断層の中軸部を含むコアを採取するとともに、各種坑井内検層・坑井を利用した観測を行ってきた。ここではコア試料による解析結果と坑井内測定等による結果の統合的な問題点を議論する。破碎帯はコアでの変形・変質で特徴つけられるが、検層のP、S波速度の顕著な現象と良い対応を示す。さらにトラップ波のから推定したS波速度の低速度層の幅とも良い一致を示す。浸透率についてコアによる測定と坑井内検層による推定を行った。坑井内検層から非常に高い深度分解能で連続的な浸透率分布を推定することができた。コア測定の結果と傾向はあうものの絶対値は異なる。

地質調査所では1995年兵庫県南部地震の直後に野島断層を貫く坑井を掘削し、断層の中軸部を含むコアを採取するとともに、各種坑井内検層・坑井を利用した観測を行ってきた。ここではコア試料による解析結果と坑井内測定等による結果の統合的な、問題点を議論する。野島断層の破碎帯はコアでの変形・変質で特徴つけられるが、坑井内検層のP波、S波速度の顕著な現象と良い対応を示す。さらにトラップ波のから推定されたS波速度の低速度層の幅とも良い一致を示す。

浸透率についてコアによる測定と坑井内検層による推定を行った。坑井内検層から非常に高い深度分解能で連続的な浸透率分布を推定することができた。コア測定の結果と傾向はあうものの絶対値は異なる。